



天文七年信虎朝長四十八歳晴信朝長十八歳次郎左馬
 助信繁十七歳成玉正月元日年始乃盃を祝せけり
 了嫡子晴信朝長次郎乃左馬助へ所せり也
 膳乃扈從等中面かく見けり晴信朝長更了氣乃付
 中子體みく座を其後三男孫六信連了指玉ひ去り八晴信
 朝長少小恨家色かく却り恐也慎り退出せり也けり
 鎌倉年中行事 享徳年中乃書あり天文七
 早且御祝乃始了蛇搗栗昆布みく御酒あり其時番入
 紙候乃奉公中御酒下り也御扇一本宛拜領御迎邊子
 宿所あり人々非番みく御祝子被達十方あり其後
 御臺様 鎌倉公方 同御袋様上臘極中臘極下臘皆々御

所へ御冬云々朝乃御祝之御系呈着ふ御酒之獻其
時奉之乃老若出仕宿老一人宛御前へめせ也御盃并
み御劔被下之云々とあり是を鎌倉成氏朝臣乃時乃
式お里長祿二年以来申次記了正月朔日當番の申次
御對面所乃際乃砌へ系々面々と申入る罷退御之盃
參ふ同數の御盃系系則御酌被系以て御之盃之あや
彼同食以て其後數乃御盃人數了依て之所ふも五
折ふも並ひて重里以御盃乃上へ一通さ出りあされ以
て置也以時御酌乃人御鉈子を先御前乃帖了置て其
御盃乃御下を少宛次々乃御土器へ入渡中へハ聊
の潤ひハ尤様了以て本膳の之御盃を也其上居渡

中ハ均ハ御前乃何方ハ御盃一也每以ハ尤様了以て
其數乃御盃を系中た系も何方を御前乃とをり御右
乃方ハ差除て置御帖了系中は系御鉈子を取て數
の御盃乃何方並中た系新ハ片膝を立畏て御盃を一
宛取て御鉈子乃上居りて被待中ハ之職細川斯波
畠山を云
以下御盃頂戴乃宛一人宛被系給人也と云也京都將
軍家乃式お里其他上野新田金由良家乃式也持派
長門守覺書ハ見え安房里見家乃禮也此條ハ代記ハ
記せ里
同日廿日板垣駿河守信成を使とて晴信朝臣了近日
駿河へ御越あり今川家乃傳也た系諸禮式舊古有座

き命を中させけり。晴信朝長、誓ひ悪く色給入氣色去
く仰乃趣謹く承るる。御談次第發途仕ふ趣きふいと
中させ勢玉への信形渡をそりくと流し、君も何と申知食
色以への尤様了、徳やうかふ御返辭を中させら給く
あぢ大教了る。次郎教を總領ふ立させ勢ら色ん、為ふ二
先君を目み見えぬ邊へ追懸け給入御下意と。甘利備前
守、飯富兵部少輔等を、老長と申、因了推察し、斯くハ
新羅三郎より、以降累代乃御館を、智菟の墟と申、維鬼
乃棲と荒さんと遠ふあ、以然ハ君を勸め、申、大教を
推察系ら、當家中興乃謀を運ら、以とんと、晨昏心を解
き、以了。何史程云、甲斐あ、一とを、以宜、以、後、申、思、立、せ

玉へと道理を盡し、申せ共、晴信朝長、更了同心、乃色あ、
坐ハ信形もせん、以、形、退、出、し、重、孫、く、飯、富、兵、部、少、輔、と、共
不、信、虎、朝、長、乃、前、子、出、く、中、け、教、を、晴、信、朝、長、駿、河、へ、趣、を
あ、入、趣、き、御、催、し、一、定、と、承、ら、り、以、俱、一、人、あ、く、打、立、を、玉、と、ん
あ、万、一、小、田、原、を、く、以、諷、方、小、笠、原、あ、ん、と、へ、落、紗、を、玉、は、く
申、々、後、御、大、事、あ、ふ、趣、し、是、々、大、教、申、以、駿、河、へ、御、越、有、く
然、晴、信、朝、長、を、迎、せ、勢、玉、は、何、乃、怖、畏、う、以、へ、と、詞、巧、に
勸、中、去、ら、り、信、虎、朝、長、實、志、と、同、意、せ、り、也、晴、信、朝、長、を、は
甘、利、備、前、守、了、預、け、以、駿、河、よ、里、一、尤、右、次、弟、送、り、里、冬、ら
を、趣、き、申、定、ら、也、御、館、乃、留、守、不、く、尤、馬、助、信、教、系、万、事、ハ、庇
ふ、伊、豆、守、信、行、及、以、諸、老、長、等、乃、計、畧、た、ふ、へ、く、申、不、く、三、月

九日甲府を去る。駿河へ趣き、入斯く板垣信形、飯富虎昌、
小山田備中守元、伊豆守等乃諸老長、甘利備前守り許小
打寄、大殿次第、不氣随、成せ、あひ、諫ふ者、討果、遂に
晴信朝長を廢す。家嫡を亂ん、を謀ら、勢玉へ、と、天道猶
或、田乃家、冥加、あ、勢玉、ひ、け、不、驗、見、え、く、駿河へ、渡、り、勢
玉、ひ、け、不、の、晴信朝長、乃、利、運、了、當、ら、勢、玉、不、去、瑞、ふ、急、き
御館へ、御、後、從、あ、里、く、疆、界、乃、關、乃、戸、を、鎖、勢、ら、を、隣、國、へ
乃、御、手、遣、あ、く、勢、ら、色、以、へ、か、く、と、勸、中、世、は、晴信朝長、袖、つ、き
合、を、諸、老、長、等、乃、計、畧、最、其、理、あ、里、と、云、共、父、乃、讓、を、受、ま
あ、く、家、督、た、ら、ん、と、我、本、意、了、何、く、折、殿、乃、仕、置、暴、虐、了
坐、を、を、以、く、國、人、乃、惡、を、受、あ、入、と、か、ら、は、我、の、長、男、あ、り

共、不、嫉、を、受、以、愈、く、我、何、を、此、民、を、撫、育、ま、る、と、を、得、へ、く、や
卿、等、深、く、思、慮、あ、く、我、不、孝、乃、名、を、取、ま、不、と、か、り、也、と
宣、ひ、志、の、板、垣、元、以、下、然、ら、ハ、氏、神、八、幡、大、菩、薩、御、旗、楯、無
乃、御、前、み、く、闇、を、取、く、神、慮、了、任、を、く、御、計、あ、不、愈、く、は、あ、く
即、御、旗、楯、無、乃、別、當、山、下、伊、勢、守、承、を、く、く、闇、を、窺、み、了、老
長、等、乃、計、策、不、從、人、愈、く、神、慮、揭、為、か、り、呈、け、也、の、斯、上、の、と、く
同、十、七、日、晴信朝長、御、館、了、後、從、を、あ、入、愈、く、旨、を、定、め、ら、終
け、あ、り、九、馬、助、信、繁、元、よ、里、見、了、尊、く、親、あ、也、く、あ、よ、里、信、虎
朝、長、母、後、く、駿、河、へ、趣、き、け、あ、り、市、川、笠、井、青、沼、古、屋、大、石、不
鹽、等、り、妻、子、を、人、質、曲、輪、了、取、籠、く、終、後、了、晴信朝長、越、近
く、見、弟、一、所、了、本、丸、了、入、玉、入

春秋傳不宋樂祁魯乃昭公を謂てあつて政を喪ひ民を
無き里而て能其志を逞る者未あき有！國君は是
を以て其民を鎮撫を詩ふ云人乃云ふ亡去心乃憂也
昭公廿 信虎朝長乃暴虐魯昭公の類了非き殆桀討乃
又年傳 行と同！幸ふ祖宗乃時威と世長乃果新ふ依て其業
を墜り至らむ孟子乃云貴戚乃卿を君過あきは諫む
諫めて聽ききは位を易ふとかや板桓庇ふ甘利等と同
姓ふ！最重代乃老将ふる其祖宗乃ためふ主乃位を
改む固る乃ふ今里敢て終むへき理か！晴信朝長六の
歳より八十八歳諸老長乃推尊と國人先を厭ふ故
とふあき以て争う事乃爰ふ及ふへんや！然らば信虎朝

臣を追ふ乃の晴信朝長了非を！諸老長と國人今里と
云一
駿河乃今川義元朝長を内々晴幸を申せ！と乃符を令
せ夫ふる如く信虎朝長果！諸老長乃ためふ國を追出され
駿府了来里玉へ！然らば老幼乃信虎朝長を駿河に停め五年
着て晴信朝長乃家督を定め！是父を質と！子に制せむ
道理か是の甲斐の國を永く今川家乃旗下たふ魚！と思惟
有てまの信虎朝長の館を新造せらむ！饗應せむ！大方あり以
斯ふ折節義元朝長乃此方御産乃催！有て男子誕生坐
ぬ信虎朝長乃外孫ふ！後ふ今川上總介氏真と申せ！是
今里駿遠乃諸士今川幕下乃歴々兼て晴幸を云ひる！とよ



信虎朝臣
 駿河へ越
 玉入由
 いく乃如そ
 鮮ある



天文五年内窪田
 藤右兵衛尉統泰
 畫一日蓮上人
 画賛乃内式士旅
 行乃鮮あり

信北縮圖



玉續一ノ冊五

七百餘騎 諏訪頼茂乃侍桐原重水正千八百餘騎 小基
 原兼御子まゝかたを追退け 檜場野 葛木 兩處乃軍
 小首を斬て二百七十口 級晴信朝長 甲府乃館を出て
 信濃乃兩將を挫て是去り かく兵を制して貫繩乃如
 く 碁局乃如く 疎暢洞をかゝる 管仲々遺法了 據る所以
 か 不慮十 天文八年閏六月廿二日 又海後乃城を責る 藥師寺
 右近多治之太兵衛 小沼川 舍人助 村上義清乃為ふ 志
 世 天文九年正月 小荒間了 戦ふ 村上乃清 聖井より 二千
 五百餘騎を破る 天文九年二月 岩村田 天文十一年
 平澤 同年閏三月 宮川 同年 大門峠 同年十月 處々乃軍 小打
 勝る 今乃信虎朝長乃叛き 夫乃諏訪 佐久小縣 諸郡乃

軍教 所縁を求め 進々人質を納る 歸参を不申 駿府へ
 落かく 聞えり かの信虎朝長も 莫々了 傍り在る 見ぬ入る
 後安々也と 更了 歸國乃念を絶て 剃髮 深衣乃體了 成也
 乃之 斯有 後乃晴 幸駿河り 在る 何りせん 急き 甲府り
 参て 軍議了 如く 不慮 但故かく 呼寄たらん 小の武 功譜代
 乃 諸士 思付り 々々 天文十三年正月二日 板垣信成
 飯富虎昌 甘利備前守 かとを 呼集め 佐久小縣 諏訪等乃
 塙月了 城を築き 軍兵を籠置 連々 村上 小笠原 諏訪 本
 曾等を 并從へ 碓氷嶺を越る 關東を 平均を 教り 或は美
 濃 飛驒を 討靡し 若狭 近江り 進る 都小旗を 立一度 武家
 乃 棟梁と 仰せんと 思ふ也 城取 繩張乃 名人 あらば

召連来也と宣へ板垣信形進出くそれ未だ之列牛中儘
乃浪人より本勘助晴幸と中老今と駿河乃今川敏了仕
官を頼く庵原安房守り家了寄居いふ也是を権謀乃
十二家形勢乃十一家陰陽十六家技巧十三家元々兵書
五十二家を胸了浮へ張良韓信り序次兵法を明めたふ
達人より以と中老の晴信朝長兼り岡及ふ勘助急き呼寄
願し所領より川百貫を與人願きおつとそ宣ひける

天文八年九月十二日轉害會執事記小餅米長合升定十
八石代十六貫三百文飯米以十二石以十七貫八十八文
と兄也長合升より山城國相樂郡平尾村岩崎氏より孫を
系物方に付六分半深一寸九分弱積田十一寸餘今升の

六合之勺六撮を容る即是延喜式乃穀升亦長合升乃
十八石也今乃十一石以斗以升八合餘不當其價十
六貫三百文亦は一貫文了今乃米七十石二斗三合餘不
買へし然る時より百貫文了今乃米七十石二斗三合餘不
當る年小依り豊耗より有るけ也共米價乃大概を窺ひ
知るし是を所領と云ふ初回賦を定先ら也一時一町
乃獲稻五百束を割り廿二束を租と云ふ此は百姓の有る
租を積り是を封と云ふ領と云ふ百姓地乃封あり故に
領家と云ふ租より代り布帛綿革を輸を濟物と云ふ乃
貢と云ふ是を納を運上と云ふ終り一轉より田地を給を
致すも物を與人系を所領と云ふ樂記乃領ありとあり

葛藤小総鞍おふ魚一弓鎗を小者了荷とを采黨を衆
替了騎しめしと元弘元年唐崎濱合戦乃采小後陣小
引ける海東う若黨八騎云々佐々木判官中馬を射させ
る衆替を待たしと名を惜命を輕くを教若黨共返合
へし合可々ふ討死せけふと有ふと知へし

庵原晴幸小百貫乃墨付をたて後了發是を魚一と云け
るを存せ教旨乃以と其後駿府を首途し二月上旬甲府
小着し板垣了斯と告しかの信成即十次く御館了冬其
體一服ふし是破た里手疵處々了蒙る手指不足せし然
小其名に方小隠せおさば能く武畧了秀たふり故おへし
さくを百貫乃禄不足お里晴信り見奉乃駿ふより二百

貫を與人魚しとく其座小く朱印を出せ是輕廿八人
を預け横田京市川城多田等乃列小おらせたり

源平盛衰記信連戦乃采小足輕共亂入く探し奉せと
下知と云へ檢非違使廳乃下臘お里三井寺會議乃采
小三位入道頼平家を夜討小せんふは是輕二三百人法
勝寺乃北拔より三系河原祇園乃邊とをふりと遣し
と云小子息兼綱檢非違使判官た里一間是輕下臘を
使しおふ魚し奉平記了楠り足輕乃野伏と云へ廳の下
臘小非を輕捷乃歩卒と聞於樵談治要小是輕と云若
敵乃楯籠りたらんお小盡くわ力おし尤小魚所々を
打破り或わ火を掛て財寶を亂ると單小晝強盜と云



魚一と云の平相國乃禿乃類とあは京乃河司乃下部
と知る永禄六年京都將軍家役人帳了同朋御末之男足
輕元秋本兵衛尉曾我左衛門尉之上式部丞中島但馬
守以下廿七人を載せ其次る足輕元野村越中守長
井兵部少輔十口人を載た是但是足輕乃將ふる
奇異雜談了應仁乃頃足輕一人あり朝飯以前本關子
乃紋乃帷子了萌黄乃緩子乃十徳子刀服差みく宿を
出中間々肩衣に幅袴ふる之の笠を頭ふかけ手鐙を
荷く跡了拖くと云足輕由將ふるへ！甲列乃足輕を
革具足を著く鐵ふく筋を了た革兜を著く白き軟
枝乃指物を差く鐵炮乃足輕を了知乃三貫川かり長

柄鐙荷小旗馬印持等乃足輕乃知行二貫宛と云里今
乃田地小免也の三貫乃十二石二貫乃八石あり
原加賀守昌後進之出く中ける古語不位定里く然後
出也を録を禮記又功を以て録を詔ふ周禮と由承る
以以法ふる山本勘助未何功也其位也其位也其位也
中々ふる百貫乃録を外ふる一と表の儀忽ふ似く且
之他乃議を招く端ふもや以ん是説と諫む也ハ晴信朝
原さ進はとよ勘助未之列牛産了住せし頃我を十に歳
乃時小山田備中守と共に遙々三列ふ立越彼者了兵法
を學以國々乃風俗弓箭乃意地要害乃繪圖を調へせ
其後駿河了移らせ今川家乃消息を窺をを關東乃機

密を籌らせた里一功勞九年了及ふ二百貫更に惜み是
を今又晴幸を困ふ處有ら故に呼寄大里怪とあはせ
願ふ面々能相親く其の服眩年月とかせと諭されり
蜀乃先主諸葛孔明と情好日小密あ里とく關羽張飛
懐えは時小先主の云某孔明あるを魚乃水有ら如
去願ハ諸君復言あつせと有ハ關羽張飛後あく言
晴信朝臣佐久小縣乃都を討て村上逼らんを何と
為る勝へさせと問せけは晴幸さん候小縣郡海野
庄と上野國吾妻郡三原庄とを埒連るを埒科更科乃兩
郡小隣里村上乃葛尾を無礙不程込海野地頭小左衛
幸氏乃後小真田彈正少弼幸隆近年村上兩庄を掠ら
せ今も浪人ふく上野叢輪の長野信濃守業改ら許ふ

又晴此者を召く兩庄安堵を賜る里小自ら兩科を
狭めく村上を斃む便と成るくはあつと申せば晴信朝臣
實に然る處とく即真田を召せり真田此歳廿一
弓箭を家乃藝を叢兵法を晴幸乃指南を受くか故とかや
爰小佐久郡小田井と云處了小田井又六郎同次郎左衛
門尉とく兄弟乃者あ里村上一味とく海野三原乃通
路を絶り真田を海野へ歸せんふを此路を開くは
叶す去後小田井を語へとく使者を遣し道を假んと
言せは小田井兄弟打寄武田を信おき大將お里佐久
郡を打越り海野三原を討程あらは其往還了遂に當家
を討んらん唇川さく齒さむと云とあり海野三原を

村上乃葛尾不途迎。義清後援を為程。おらの真回何かと
猛。共容易両庄を取。叶ま。晴信真回を見續んと
出。時我等爰不。嚙留。及真回を討捕んと。掌内を
不。と評定。て道を假。と返辭をか。晴信朝長是
を。然。小田井を攻落。佐久小縣乃通路を開くへ。と
天文十三年霜月中旬。晴信朝長八千餘騎を引率。佐久
郡へ打。出。晴幸の孤。蘆田下野守。村上小笠原と睦。
からぬ中を。知。色。の竊。不。色。を語。ひ。け。か。一。議。不。由。及
も。以。降。冬。蘆田。小田井。乃。色。を聞。小諸望月。平原
依路前。山内。岩尾等。の城。至。皆。所。縁。了。純。降。里。け。去。
共。小田井。を。只。一。人。肝。た。く。回。方。不。敵。を。引。請。今。や。寄。る

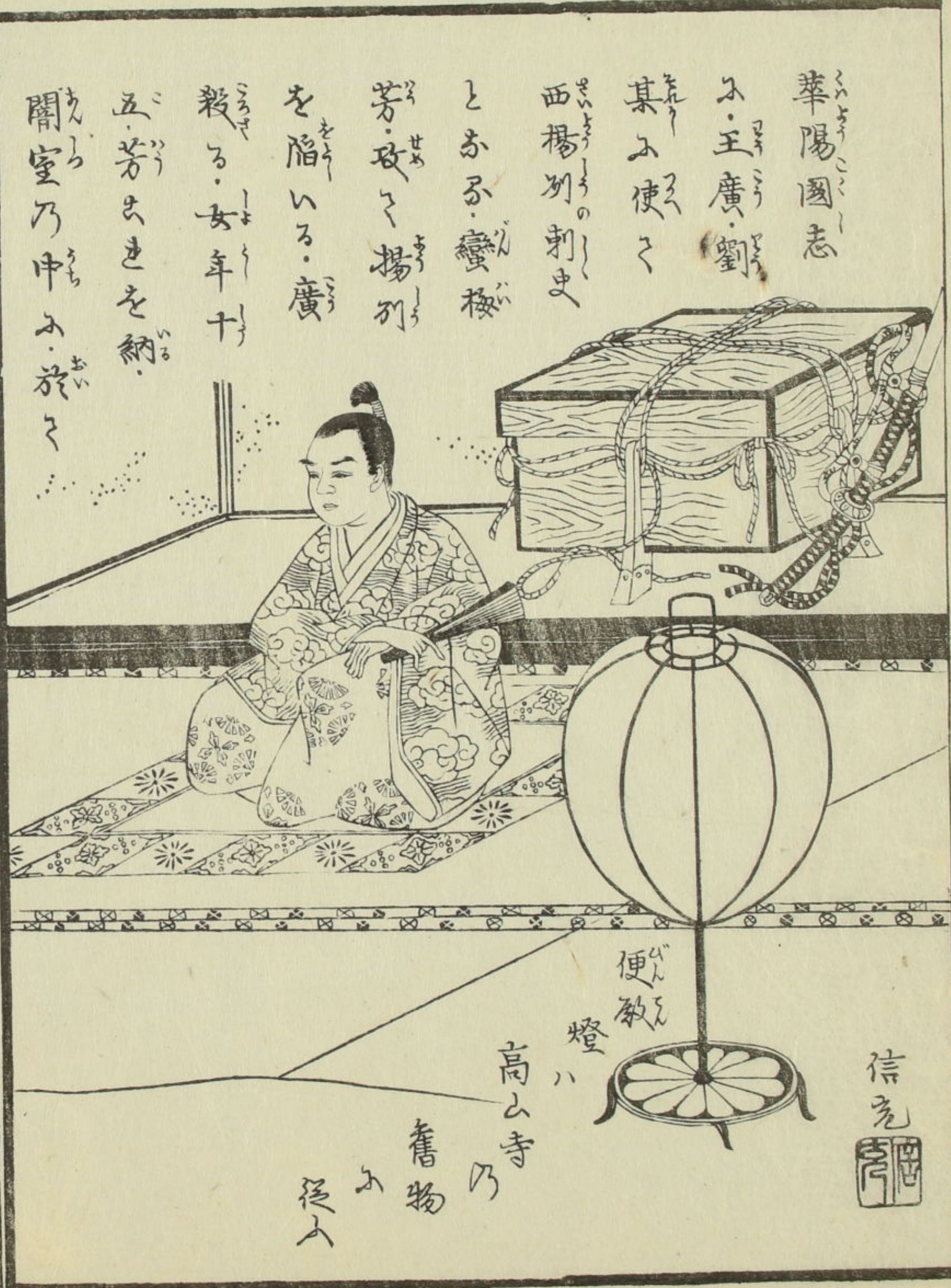
と待懸。大里去程。不。十二月十四日。板垣駿河守信政。先降
不。押寄時。乃。聲。を揚。責掛。小田井。又。六郎。も。切。出。
火花を散。去。攻。戦。板垣。組。不。廣瀬。郷。左衛門。猪子。才。孫
三科。傳。右衛門。曲淵。少。左衛門。鐘。を。合。せ。思。々。高。名。を。不
回。井。叶。も。以。城。へ。引。入。大里。明。也。ハ。十六日。乃。早。旦。不。武。回。孫
六。信。連。を。大。將。と。し。之。後。源。左衛門。尉。昌。豊。原。隼。人。佐。昌。勝
小。又。子。餘。騎。を。差。副。板。垣。加。勢。と。一。時。責。了。攻。破。里。曲
淵。又。六。郎。を。突。伏。首。を取。小。幡。孫。次。郎。と。文。六。郎。の。弟
次。郎。左。衛。門。尉。と。不。回。井。の。家。子。上。原。市。之。助。と。二。人。の。首。残
捕。大。將。討。也。上。ハ。小。回。井。忽。落。城。也。斯。く。佐。久。郡。一。圓。了。平
均。志。以。也。は。内。山。城。了。飯。富。兵。部。少。輔。虎。昌。を。置。小。諸。城。不

小山田備中守信茂を置岩尾城、真田彈正少弼幸隆を
籠置、村上勢を押さず。晴信朝長を甲列へ凱陣あり。是
晴幸、肺肝より出、初度乃鷹和と閉之。里
へ歸、先代乃後を謀、秦王乃末、吳楚、燕趙、齊魏、皆其
先代乃後を謀、秦王乃末、吳楚、燕趙、齊魏、皆其
諏訪郡を討、を討、を討、晴幸、意見を問、を問、晴幸中、振
諏訪刑部大輔賴茂、主と云、君乃叔母婿、坐せと、
大殿、信虎と塙、同を争、を争、勢ら、近頃、矛楯、子渡、ら勢、
不元、来指、る遺恨、あり、非、合戦、志、士卒、を苦、
を傷、む、良將、乃徳、と云、は、是、和平、を取、結、
隣國、乃好、を篤、く致、さ、是、伊奈、郡、ま、御手、不屬、
と、と、理、明、ら、不計、里、け、は、即、葛木、を限、甲斐、と、諏訪、と

乃塙を正、長、一、家、乃交、を結、んと、契約、乃使、者、を遣、
去、不、賴、茂、以、晴、信、朝、長、の、軍、法、敵、以、難、く、思、ひ、け、
よ、け、と、悦、み、天、文、十、三、年、極、月、和、平、乃儀、整、ふ、
甲府へ冬向あり。晴信朝長、續應乃為、と、大藏、大、
藝を興、勢、を、け、里、爰、不、板垣、駿、河、守、信、
繁、と、共、去、二、月、十、日、諏、訪、へ、發、向、對、陣、を、取、
里、け、不、思、小、寄、を、晴、幸、に、計、畧、ふ、忽、和、議、調、
事、不、屬、せ、一、信、形、偏、執、乃情、を、起、
く、死、力、を、竭、せ、勲、勞、を、辨、士、三、寸、乃舌、
安、く、孫、如、何、ふ、晴、幸、不、鹽、川、け、
原、弥、右、衛、門、尉、を、誦、入、て、賴、茂、能、不、聞、と、
餘、念、不、け、見

一處を飛掛里只一刀不切伏大里頼茂も服指を抜萩
原を突通さんと為つと小遂子叶を以討せりけり
廣を攻ける時、齋食其齋王不説く、齊乃七十餘城を下
韓信乃歸生を歸するを城く、夜齊を襲ふ、齊王、齋生を
烹く、刺さる、と史記不見え、た、里、今板垣、晴、率、是、不、於
を城く、と韓信、齋生を城く、と事實甚、據、似、た、里
と諷訪重代乃侍と小大不憤里諷訪乃祝を大将とく
甲府へ寄んと謀生、例、え、け、せ、の、去、の、押、寄、踏、潰、よ、と、天、文
十四年正月十九日遂に諷訪を打滅し、板垣信形を城代
と改、二本、壽、齋、記、ろ、天、文、十、四、年、正、月、朔、日、然、る、ろ、頼、茂、不
甲府へ、萩、里、柳、町、ふ、ろ、生、害、と、見、ゆ
一人乃娘あ里今年十四了成、あ、ろ、容、顔、乃、嚴、き、壁、を、取、り
物か、一、母、御、前、を、晴、信、朝、臣、乃、叔、母、か、せ、の、諸、共、ろ、甲、府、へ
來、里、幽、か、ろ、方、ろ、住、せ、玉、以、ろ、ろ、晴、信、朝、臣、風、不、娘、若、乃、王

を聞玉以側了、台置をやと思、不、を、中、を、老、長、等、ろ、議、せ、ら、れ
け、ろ、板、垣、敏、富、甘、利、を、始、一、同、ろ、頼、茂、を、討、玉、以、一、と
君乃奉意不非、と、と、云、共、諷、訪、乃、一、跡、断、絶、せ、一、の、女、姓、か、ろ
も怨め、一、思、ろ、不、願、一、御、側、ろ、台、置、也、の、如、何、か、る、野、心、を、抜
せ、也、ん、也、知、難、一、御、用、公、有、ろ、強、ろ、へ、一、と、中、け、ろ、了、晴、幸、竊、不
中、換、老、長、等、乃、中、索、其、理、因、え、ろ、以、へ、と、小、娘、若、後、不、君、を、離
と思、せ、也、ん、不、の、今、臆、ろ、と、當、方、へ、渡、ら、せ、玉、也、ん、や、諷、訪、あ、ろ
如何、小、成、玉、人、へ、一、然、へ、何、乃、御、氣、遣、ろ、以、へ、手、結、向、娘、若、乃
御、腹、ろ、若、君、延、生、坐、へ、若、や、諷、訪、家、乃、立、還、不、悅、の、由、や、と
今、降、冬、乃、諷、訪、借、代、乃、侍、共、乃、心、を、固、む、不、便、不、願、一、と
議、ら、へ、何、由、代、一、決、一、然、去、也、娘、若、を、台、也、乃、也、
頼、茂、乃、女、孝、か



華陽國志
 不王廣劉
 某不使
 西揚別刺史
 とおふ・蠻極
 芳政・揚別
 を陥いる・廣
 殺る・女年十
 五・芳去を納
 闇室乃中不於

信光

便教
 燈

高山寺

舊物

後人

玉續一ノ四十七



芳を撃く中
 芳曰く何故不反や
 女云く蠻我を畜ひ
 父を誅せ父讐み更
 を同せ以汝人乃父母
 を逆害し復無礼を以
 人を凌ぐ吾死さる所以ハ
 汝を誅さんと欲されハ
 汝ハ首を通衢小鼻
 恥を塞とを得る乃之
 遂子自
 殺せと見也

競ひ掛る去共長時乃將長澤兵衛大士能戦ふ甘利諸
角忽に破走んと以るを見く原加賀守昌俊軍を今も續や
物共と敵を引手了引受横鎧を突掛る長澤今日を限と
力戦しく小笠原乃軍潮乃如く盛返を甘利諸角原三
手乃兵士命を際る紅を挫くと云共敵乃兵機壯し味
方漸敗軍不及んと以時ふ右備乃栗原九兵衛尉詮冬完
ふ伊豆守信良ふふ副く押出し潮尻嶺小向く木曾勢
ふ突く掛る小笠原乃後を絶んと馳け色は左備乃典厩
小山田も雁行し續い々攻掛る長時色を見く敵も後
陣に押廻る勢引包ま色を叶入す嶺了引くよよ里
攻よと云程出たあ色大旗小旗色めき渡をまとも敵

を崩す追討志く分捕せよと聲掛る晴信朝臣乃旗本を
鶴翼に開い々長時を追捕籠んと攻兼色は長時遂に敗北
以半刻より未刻まう乃軍も味方へ捕首六百廿九級
と勢是偃月乃陣法ありと云里
五代史ふ安重榮及と杜重威逆く宗城了戦ふ重榮偃
月陣を為重威出也を撃ふ動り以少く却り以く是を
伺とんと欲す時ふ偏將王重胤り云西兵相交と色退者
先敗るありと乃分て之と云！重威先左右隊を以く其
兩翼を撃く戦酣ふ孰時重胤精兵を以く其中軍を撃
重榮遂に大に敗ると云里左備右備を以く後援乃木
曾を撃後入旗本を以く長時も本陣を破里くと云

合さたふり如し

伊奈乃一毅を小笠原本曾乃敗走をるを餘河了見か
静里返す備ふか申乃下刻不及んと悉く陣を拂ひ一人由
残らむ引退く此子了向ひく板垣信政是を見く敵を引
退くそ追蒐く咬留よと競里切く押出以信形を賜ふ萩原
與三九衛門尉同九郎次郎とく兄弟乃者有ける信形
驛乃側子馬打寄伊奈勢乃引取様心得難く候能く御思
案有へき小やと云信形大了怒く若者了似合ぬ怯弱かる
詞のか軍を斯去そ驅せ續や者共と真先入進む折節日
まゝく暮んと志く霧立掩ひ小雨降出前後乃物色見
名分ぬ處をゆた里と相圖乃大鼓を打く伊奈乃一毅引返

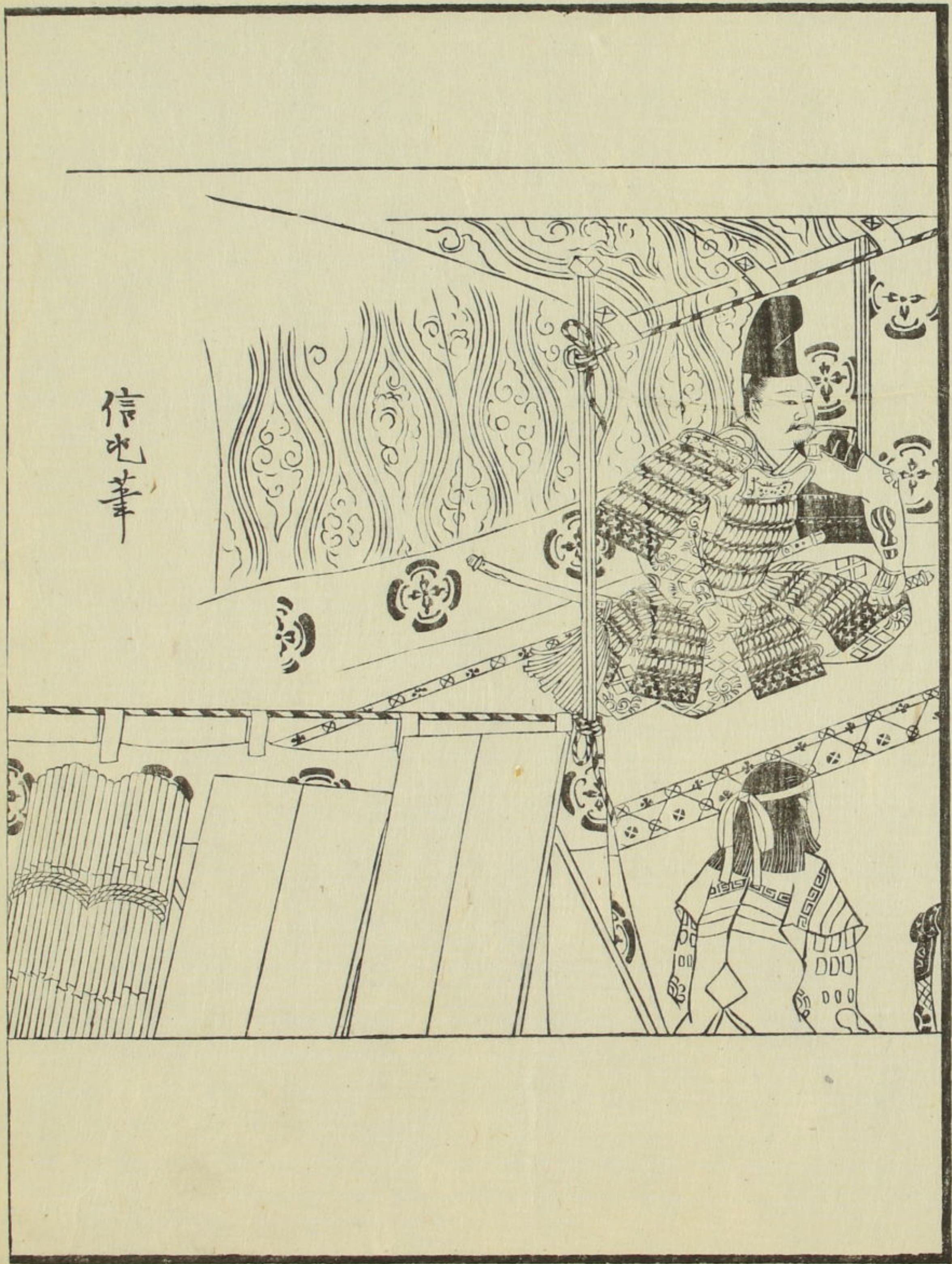
せの隈やう伏置た里け子遅兵處々よ里起く板垣を中
小取圍関を作里と操合た里萩原兄弟能軍く九郎次
郎を始良者曰十一騎枕を並へく討死を信形幸く志く
士卒を纏く引揚た連と由敵を及三騎ふ十一人寺夜味方
多百六十人討死を信形一身不覺と皆人是を詳しけ
る小晴信朝長と怒ふ公と亦く静小晴幸小是非乃
意見を問ふ小晴幸畏く申けるを尤右乃備ふ本曾を
追く取々ふ分捕く中軍より長時を破る板垣遊軍ふく
終日伊奈元と對陣志く箭一ひを由射遠入ふ了及た以
既小伊奈無乃退くを見く老練乃信形遠里過く捨奸ふ
遇く破也一と壁の節乃猿由本よ里落身と及爰ふく以

然也共信形亦也及出於萬死を以て一生を遭たんが終末
練乃者あくひと一人の生くを歸るよりなき也然らば
此君乃御徳ふくひとやあまの晴信朝長結句快了坐す板
垣り敗軍城更了終めあふと無里乃里 秦獲公百里孟明
三人殺ふ敗也晋了獲也後ふ秦了歸里了とて後公秦服
去る郊に迎ふ青を以て大徳を掩て以て云く三人を重
船ひら也大里了天文十五年三月下旬晴信朝長小縣郡
政事思ひ命へし 戸石城を攻むる為出陣乃用意あり伊奈小笠原乃押上
板乃押申府乃留守等ふ人数を訂むり也及戸石へ向ふ
軍兵は二百七十餘人と控閑え大里三月十四日城乃
巖へ押寄る粟原左兵衛尉詮冬蘆田下野守相木市兵衛
川上入道依知福澤平澤等を先鋒ふあし只一搦ふ攻落

とんと搦大里又村上義清乃後援了向へ居とく甘利備
前守横田備中守同彦十郎加藤河守と戸田郷乃向方
をふ茨根殿乃藪を前ふ當る陣を取其次了小山田備中
守其次了晴信朝長曾根七郎兵衛山本勘助安間と右衛
門を從へし旗を立てふ後備を諸角豊後守昌清あり葛
尾乃城ふくむ戸石乃注進を例や岩村上義清七千六百
人を引率あく樂岩寺右馬助小島五郎左衛門了先陣打
世甘利了手へ面中振せ切る掛る小島關ふあ勇士あく
諸卒ふ進く働くを横田彦十郎恥と見く又晴敵や好む
處乃相手哉と馬を馳寄押雙組く落る首を討る乘牌共々
分捕り樂岩寺を頼切大夫小島を討る安間了只一搦ふ

一戦了雌雄を決せん。と真幕不突掛。火花を散志く攻
戦へば城の中より関を揚。城戸を開く。出粟原。蘆原
勢。不面。振。突掛。是は後陣。和。川。入道。見崩。也
崩。也。相本。福澤。備。了。逃。入。大里。粟原。蘆原。よく戦入。と
云。と。村。上。勢。大軍。か。逃。入。替。々。命。を。惜。ま。以。攻。蒐。る。甘
利。備。前。守。横。田。備。中。守。一。是。也。討。死。を。晴。信
朝。長。も。今。も。是。也。と。小。山。田。諸。角。を。左。右。了。立。義。清。と。有。志
乃。一。戦。を。遂。ん。と。送。ら。也。け。か。を。晴。幸。公。は。率。尔。乃。御。名。別
か。良。将。也。危。戦。を。挑。ま。以。敵。乃。朋。勢。を。南。了。向。を。せ。以。て
必。定。味。方。乃。勝。と。成。愈。了。と。中。を。は。晴。信。朝。長。味。方。乃。軍。兵
さ。へ。自。由。了。お。ら。ぬ。了。敵。乃。勢。を。何。と。と。先。様。公。乃。為。へ。と

楚と宣への晴幸。然らば諸角。五十騎を暫く御預下。され
以へり。一術仕。見。以。と。せ。此。上。を。鬼。也。角。也。軍。の。晴
幸。不。任。を。か。か。里。と。諸。角。を。以。て。甚。助。了。引。合。せ。組。子。を。暫
晴。幸。不。渡。以。へ。と。宣。以。け。也。の。諸。角。畏。く。組。子。を。晴。幸。了。渡。以
晴。幸。我。是。輕。少。人。と。諸。角。組。子。五。十。騎。と。を。別。以。下。澤
を。押。廻。了。戸。石。乃。邑。乃。後。へ。押。出。了。備。を。立。大。里。村。上。勢。公
甘。利。横。田。備。を。突。崩。了。晴。信。朝。長。乃。旗。本。へ。真。一。文。字。了
切。懸。ら。ん。と。捫。合。け。る。也。本。諸。角。備。乃。立。様。是。也。必。定。村
上。勢。乃。跡。を。取。切。ん。と。為。か。か。里。了。去。は。先。け。勢。を。や。追。拂
へ。と。朋。勢。を。去。り。南。向。よ。と。見。え。け。也。甘。利。組。乃。米。倉
丹。後。軍。を。勝。そ。と。聲。か。け。了。真。先。了。進。む。晴。幸。鞭。を。奉。了



本陣了馳歸里小山田の勢をくく甘利横田の跡を謀る又
栗原蘆田の陣了走勢今暫時乃間々努力玉へや人々と云
損く又小山田甘利の陣了馳向ひ終り村上勢を連退け思
ひ分捕せり今日乃戦まると小難儀ふり味方七百廿
一人討死すと云共晴幸り一時乃推謀る依敵を討て百
九十二人然も芝居を踏る勝鬨を執りひ首實檢去る軍
勢を息申府へ凱陣為玉ふ今度晴幸敵乃勢を漸く廻せ
不思議乃軍配よ生魔利支天との此人あらんと國中一同了
沙汰しけり

許洞虎鈴經小叢虚乃術二のあり因と云誘と云何を
か因と云日敵の盛兵乃向ふ我も亦伴る也是不應

去別子精兵を以て潜る虚地了出て敵を其壘を攻ん
と一或ハ其後を断んと我を其積聚を焚んとするを云
ふ本村上乃後を断んとせし何を誘と云敵の要
地を欲する時を則せめと隣を攻其攻具を火
か其師旅を盛ふ一以て敵兵を誘敵兵到るとハ
則と由る戦ふとかく壁を復る守り潜る精銳を以て
兵乃城を分所を襲る其内を掩ふを云とあり今晴幸
り廻ると云ハ因の義と聞るる

同年七月廿一日晴幸り軍功を賞せらるる六百貫を加え
是輕又十人を増預けら敷前合せり八百貫了七十人
人乃定輕大将を里但地時知り政免らせりと云

二百石許晴幸甲府了来。二年乃内了真田を勧め、
諏訪兩郡を鎮め、小田井、蘆田、内山、岩尾、茅の城々を取、
瀬戸石乃合戦了功を顯す。今斯大身と云ふ。九年寄食せし庵原、
能人を用人と思、禄との云ふ。九年寄食せし庵原、
を告たしと云。晴幸少時乃暇を乞ふ。駿府了至。是乃也。は
庵原、安房守晴幸を留す。種々乃饗應。山海乃善美を盡し
且晴信朝長年猶弱し。廿六と云。共智勇乃各將了坐中を
傳聞す。庵原也。是より志を甲府了通す。けると云。晴幸庵
原了諸る様。二年以前某甲府へ發是。以前百貫の朱印を
取す。後了罷越。以へと意見を副らせ。ゆるを承引せ。り
奉意也。我等片目ふ。破る。然し勢界く色黒し。百貫乃

所領過分。かると誰も誰も思ふ。庵原。晴信朝長も万一。尤思
せたらん。了の所領を出さる。ゆら。我等他國。朱印
を人了見。晴信朝長を虚云を仰ら。と云ん。必定んと
て并殺。あ。庵原。と存。朱印を取。系。以。見。冬。の
初。ふ。二百貫。さ。今。八百貫。乃。知。了。成。以。晴信朝長。の。目
利。多。人。乃。推。攀。子。依。中。以。實。小。肝。乃。價。か。と。終。夜。抱
語。又。日。滯。留。あ。舊。交。乃。奴。を。報。以。と。か。り。蘇。秦。六。國。の。王
去。後。合。了。後。蘇。秦。後。約。乃。長。と。か。り。并。て。六。國。不。相。と。か。り
と。史。記。み。見。え。り。晴。幸。朱。印。を。取。む。去。り。終。見。冬。の。後。録
を。受。し。と。辨。士。乃。胸。十月。六。日。晴。信。朝。長。笛。吹。嶺。乃。合。戦。了
中。古。今。金。く。相。同。し。十月。六。日。晴。信。朝。長。笛。吹。嶺。乃。合。戦。了
并。勝。は。子。三。百。六。人。討。捕。亥。刻。小。首。帳。認。め。終。里。膝。關。を。執
行。せ。け。か。時。晴。幸。八。貝。乃。役。小。幡。虎。盛。へ。太。鼓。役。飯。富。虎

昌々太刀持板垣信成を團扇乃役原虎胤を合歡木乃子
真羽箭加夜駿河守の旗乃役金丸筑前守虎義の南天乃
平水飯富源二郎昌景を太布乃手拭お里といや同十六
年二月二日晴信朝長晴幸を召く國中乃法度又十又條
を定めら後甲陽五十五條六月と有の同月十五日八
幡宮今並部八幡と云武田信繩朝長不系詣あり廻廊小
於く孫子乃五事一不道二不天三不地周書乃七制一不
不攻之不侵不伐不伐以下深々乃問答了及た也乃之
斯く去年戸石不志を得さ里か八月二日小縣郡小
進發ありく上田原小陣を取先陣を板垣信成之千八百
餘騎奇正乃六部了備きた里二陣を飯富兵部少輔虎昌

之百騎小山回備中守七十騎同左兵衛尉二百騎典厩二
百騎晴里夫不兵七百七十騎を回部入疊ん々備入也及
後陣了馬場民部少輔内儀修理亮逞兵之百七十餘騎旗
本を護りくおえ夫里又旗本より五六町引下り原外賀
守昌俊之百餘騎おく態と用く陣を取あ也晴幸り指南
おく締乃陣と替舞大里村上義清お色を以精兵を勝く
二百餘騎是輕二百八十人小鐘弓鐵砲を持を馬廻り三
外花威乃鎧了諏諏法性乃兜黒馬を令覆輪乃鞍是也也
望む晴信亦也只一打小と切掛り也の窪田助之也是里来
く義清り乘く不馬乃平頭を突貫く突也く馬を屏風を
倒さぬと顛也の義清実逆子百と落あや也と見抱る也子

村と勢十口又騎逐合を申小包く引退く角と見ふより
服備乃真回諸角一人由漏さくと追蒐去る義清葛尾へ
入まと能を以猿馬場乃蕪葉原へ去り出古市を渡り
深みり分入皇率入攀谷子下り越後國へ我落大皇け
此日夜垣討死し晴信朝臣薄く二箇所負せしと備よ
け色の旗率を去り中亂るる去り戸石城由落葛尾城由
開城し埴科更科乃西郡全く甲列乃法令を仰ぎ高坂井
上綿内須田高梨仁科乃瀨場以下皆降参去り信列先方
乃備了列を去りく去と去と併去也晴幸乃肺肝より出
真回を海野母歸せし策乃成就せし處かふを也
五歳甲府不東此年十月九日越後乃長尾景虎六千餘人
里々五年めり

玉續一ノ五十七

を引率し春日公を首途し信濃國入り出海野平ふ
陣を取景虎生年十八歳あは村と義清を葛尾了歸し
入んる為とかや伏久小縣西科乃城とと乃注進擲乃齒
を引如くあしりかハ晴信朝臣同十二日申刻り甲府を進發
有る十六日小諸子馳着軍ハ十九日と定めらる晴幸と
小幡虎盛景虎亂二人を物見り出さ也大皇暫時去り馳
歸り晴幸乃敵乃備整中乃散と云ふ合戦を持し持
と云皇原小幡人数六子乃内外合戦を持し備縮
く見えいと中々里
吳子料敵篇小秦陣ハ散去り自闘楚陣ハ整ふ去り久
から以秦人の性強ふ去り其地險其政嚴其賞罰信其入

譲らざる皆闘心あり故に散しし自戦ふ楚人其性弱其
地廣其政賤其民疲故に整く久しかりと見ゆ越後を
國廣く人氣柔弱およぶ時既了十月あり小荷駈乃
路雪深からんと以春日山より海野平に至る廿七八里
國を隔境を踰る之日路了及入只景虎乃家法嚴重お
志く老将勇士其指揮不後人を以て爰に至ると云共
軍を義清を主と以故に越後乃兵闘心却る鮮く是を
以て整中乃散と料里軍を持て持と評せしあり
晴信朝長より備を配へしと晴幸と商議し鶴翼乃陣
を張て鶴翼を大江維時西上り里傳ちしと云八陣法の
お軍半刻と定めら敷是を景虎乃陣の未乃がを背し

く丑乃が了沖ひ晴信朝長を丑乃方を後におしし未の方
に衝ふ十月午時子至く丑乃孤ふし破軍乃柄了當る
未を慮ふし劍鋒不當はかり是晴幸孤慮し通小山
田備中守真先に進く長尾正景より掛向ひ鐵炮を打
違ふおや番鑓を合せ暫戦く正景打負引退く次し直江
山城守村崎和泉守安田上総介進く小山田右兵衛尉乃
手小突掛里面より振を攻戦人直江村崎安田少勝も乘よ
と見し小栗原左兵衛尉敵を横に引合く急乃太鼓を打
鳴し甘糟辺江守り備ふ駈向へ越後勢を去し白けし見ゆ
る時景虎宇佐美良勝と只二騎馳來青竹乃杖を打振手
輕く人數を引揚ら敷晴幸去處を見し晴信朝長了申振

景虎人數を纏め引捕あくと見えぬ。あまの味方乃勝入
衆を連薨ひん時大返く返く合さ無二乃一戦を為ん
と乃術あふへ速り了軍を引揚長追あさる様了街下知
有るやと云い實はとく百是乃指物さたあ使番はく小
田栗原乃人數を收め軍乃次第を亂させけあ了敵を討
て二百六十三人味方乃手負討死百三十一人と擧聞え
け里是晴信朝長と景虎と弓箭を握り相争ふ初あ里晴
幸能其兵機を察し其隊伍を堅し其陣列を整ふあり故
了守佐美直江持崎等乃宿將ま甲軍乃侮りて後知
く速り軍を纏ふ是を還さ彼は是も智あ里勇あ里孫
子子彼を知己を知は百戦殆からは彼を知是と由己を知

ハ一勝一負彼を知己を知さぬハ戦了必敗ると云
理虚一ツぬをや

甲斐乃總軍ハ一萬五千人。小山田備中守相木望月蘆田
友野平尾岩尾耳取依智平原之千五百人を七組小組て
一乃先手と一小山田元兵衛尉長窪小曾塩屋和国福澤
内村二子百人を七組と分て二乃先手小三栗原元衛門
佐昌清嫡子元兵衛尉詮冬須田室賀綿打井上千五百
人を三組了組あ一甲乃先手と一真田彈正少弼幸隆
九子屋澤木旗本と合て千八百人三組了分て列を立
又飯富兵部少輔虎昌千八百人を三手再令旗本乃友
服了備ふ色は馬場民部少輔景政同く子八百人あ

左脇了備入り内後修理亮昌豊日向大和守昌時勝
入道虎山伊豆守信良武田典厩信繁二子曰百人を
八組了組了後備遊兵と云一原外賀守昌後を九十騎
を引合了跡備了並了締了備を立小荷駄千人二手不
合了跡先了押了大里是晴幸了數年調練了了了了了
組一万又了乃備了了里景虎了六千了人数を龍了乃丸
備了了了了へ旗本を以了了了了了了了了了了了了
備了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了
以了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了
陣了了了了了

